

「合唱の醍醐味」

合唱コンクールの練習の歌声が校舎内に響いています。いよいよ19日は、蓮中祭。今回の学校便りは、合唱について考えてみたいと思います。

合唱は学生のうちは毎年のように取り組みますが、大人になるとまずやらないことの一つです。趣味として大人になってからも合唱をする人もいるかもしれませんが、でもそれはほんの一部の人たちに限られるようです。

合唱の醍醐味とは何でしょうか。それは、他の人と声を溶け合わせる事、他の人と声でハーモニーを生み出す事、だと思います。

合唱で自分の声しか聞こえない、自分の声ばかり聞こえる、という状態は、実はあまりよくありません。周りの人たちの声が出ていないのかもしれませんが、また、自分が他の人の声を全く聞いていない、という状態なのかもしれません。

合唱中、自分はしっかり歌っているのに、皆の声に溶けてしまって聞こえない、という状態が実はベストです。そういう状態は、自分の声質も皆と溶けやすい声(地声では皆と溶け合いません)で歌えていて、音程やリズムも正確に取れている、という状態です。

また、ハーモニーについて言うと、自分のパートの音をしっかりと覚えて歌えること、そして周りを聴くことが大切です。友達と横並びで歩いていて、意識せずとも友達との物理的な距離をとりながら歩けるように、他のパートの音を聞きながら、その音との距離を測って歌えるようになると、気持ちのよいハーモニーが生まれます。

大人になって、30人以上で一つの事を一緒にすることはほとんどありません。30人で一斉に一つのものを仕上げることもまずないでしょう。一人一人が皆の声を聴き合い、声を溶け合わせて、全パートの声の響きが一致した瞬間の震えるような素晴らしさをぜひ体験してほしいと思います。

合唱コンクールは、金賞銀賞などの得点が出ますが、賞にかかわらず皆で一緒に一つのものを作り上げた喜びが味わえたクラスは、何物にも替えがたい宝物を手にしたと言えるでしょう。人の心は目に見えません。だからこそ、目に見えない人の心を合唱で動かしたら素晴らしいと思いませんか。

歌っている生徒の皆さんも、聴いている保護者、地域の方々も、心が動き、感動する歌声が、当日体育館を満たしますように。

期待しています。

(文責 副校長 久住直子)